

【多文化共生2】

行徳のまちから世界のまちへ ～パラグアイの人とアミーゴになろう～

【実践者】

氏 名	城島 愛	学校名	市川市立行徳小学校
担当教科等	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	3年4組（33名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年11月 ～ 12月（12時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

総合的な学習の時間

02 単元名と単元目標

単元名：行徳のまちから世界のまちへ ～パラグアイの人とアミーゴになろう～

単元目標：世界（パラグアイ）の人と友達になることで、世界に目を向け、言語や文化、習慣などさまざまな違いに気付くことができる。

関連する学習指導要領上の目標：（1）横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと

03 単元の評価規準

① 知識・技能	①日本とパラグアイの共通点や相違点に気づく。 ②自分たちのまち、市、県、国、世界と視野を広げ、日本とパラグアイが同じ地球に存在し仲間であることを理解している。
② 思考・判断・表現	①目的に応じて、適切な手段（本やインターネットで調べたり、人に聞いたりする）を活用し、情報を集めることができる。 ②収集した情報を整理・分析し、答えを見つけたり、次の活動に生かしたりすることができる。 ③目的や相手に応じて、考えや情報を分かりやすく表現することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	①話し合い、考えた活動を、自ら進んで実践しようとしている。 ②パラグアイの人や情報と進んで関わり、学ぼうとしている。

04 単元設定の理由・単元の意義

〈単元観〉

今年度の総合的な学習の時間では、まず、自分たちのまち（行徳）の魅力について調べるところから始まった。2年生の生活科では、「町探検」をして様々なまちの魅力を知っている。しかし、3年生になり社会科で学習を進めると、梨や塩、のりや寺社仏閣などまだまだ知らなかった魅力について触れる機会

があった。そして、毎年三年生が行っている「おみこし集会」に対する知識興味と憧れもあり、行徳の魅力をさらに調べたりお祭りやおみこしについて深めたりする学習を計画することとなった。そうして、1次では、「行徳の魅力をみつけよう」2次では、「話輪和笑しゅい おみこし集会 伝統を受け継ぐ祭り」をテーマに進めてきた。本時に当たる3次では、「行徳のまちから世界のまちへ ～パラグアイの人とアミーゴになろう～」とテーマを設定し、最終の4次では、「世界の課題 SDG sについて調べよう」を考えている。

3次～4次の設定理由・背景としては、今年度より外国語活動やローマ字の学習が始まったことや、国語や社会、道徳の授業で度々取り扱ったSDG sにより、海外に目を向けたり文化に触れたりする機会を持てたことが一つである。そして、中学年では自分ひとりから「友達と一緒に」という発達段階に突入し、子どもの世界が広がることも学習の題材として適していると考えた。グローバル化や多様性など子ども達を取り巻く社会が大きく変化する中で、広い世界に目を向けて興味・関心を持ち、広い視野で物事を捉えられる人になってほしい。国籍性別関係なく、自分自身と他者を大切に人になってほしい。という願いからこのテーマを設定した。前述した、「友達と一緒に」から他者に興味を持ち、協力する・つながりを持つという点で、パラグアイ発祥の「国際友情デー」を導入に用いてパラグアイを知り、パラグアイの人と友達になることをテーマにすることで、地球の裏側にいる友達とのつながりを築いてほしいと考えた。友達になるために、自分のことを知ってもらう。相手のことを知る。ということで、2次までに学習した行徳の魅力・おまつり（学校・生活・文化）の内容を盛り込んだビデオレターをパラグアイの日本語学校の児童へ送ったり、反対にパラグアイの友達からもビデオレターをもらったりすることで、交流により世界の人々との繋がりを持ち対話できる形をつくりたい。ビデオレターを作成する中で、自分達のまちについて改めて考えを深めたり、伝える内容や伝え方について仲間と相談して工夫したりと、様々な思考の広がりやズレから、多くの対話的な場面が生まれるだろう。そして、もらったビデオレターからも新たな問いを見出し、その解を考えたり調べたりする中で、日系の方に直接インタビューする場を設けることで、より深い学びにしていきたい。

子ども達の実態から、まずは興味関心を高める導入を設定することを大切にして、子ども達自身が主体的に友達になりたい！そのためにこうしよう！と活発な議論をしたり生き生きと活動したりできる単元を目指していきたい。そして、最後の4次では、パラグアイをきっかけに世界に向けた関心の流れを絶やさずに、「SDG s」について学んでいきたい。17の目標すべての達成には程遠い現状を理解し、今の自分たちには何ができるのか、小さな力でも積み重なっていけば大きな力となることを意識しながら、まずは自分の興味のあるテーマについて考え、調べ、友達と共有することで一人一人の意識を高めていけるような学習にしていきたい。

〈児童の実態〉

進級によりクラス替えがあり、新しい人間関係が構築されたり、中学年になり教科も増え学習内容も難しくなったりと、子ども達にとって環境の変化の大きな半年だった。しかし、何事にも前向きで、新しいもの知らないことに興味津々で意欲的に学習に臨んでいる。進級当初は学習規律がバラバラだったり落ち着きのない様子も度々見られたが、ゲームを通してルールを守ることを身につけたり、友達のいいところを見つけて認め合ったりする中で、少しずつ言動にも気を付けるようになった。支援の必要な児童も数名いたり特別支援学級の児童が交流授業に参加したりと様々な実態を抱える中で、できないこと、わからないことに関してもそのままにせず、練習を重ねて努力したり友達同士で教えあったりするなど、励ましあいながらクラスみんなで成長している。

1次や2次の学習では、タブレットを使って調べたり図書室から関連する本を借りて読んだり、興味を抱いた事柄について、進んで活動する姿が多かった。タブレットのキーボード入力については、ようやく覚えたローマ字で、入力が難しくても表を見ながら打ち込んだり、調べてわかったことをみんなに知らせたりと、わずかな情報でも、子ども達の興味関心が学習意欲の起爆剤になっていると感じている。また、ゲストティーチャーの皆さんに直接教えていただいたことについても、ふりかえりや感想から子供たちの中に印象深く残っていることが伺える。ただ調べて知り、自分で考えを巡らせるだけでなく、当事者の方に直接お話を伺うことで納得できたり、さらに疑問をもったりすることができる貴重な機会だったのだと考える。

本単元ではパラグアイの子ども達との交流を予定している。今年度より始まった「外国語活動」では、毎時間とても楽しく前向きに学習に参加している。授業の中で英語ではない他の国の言葉を学ぶ機会もあり、その時は比較しながら興味深そうに繰り返し口にして親しんでいる。そのような様子から、前向きに本単元に取り組めるだろうと考える。音楽会では、「きらきら星」を日本語・英語・スペイン語で歌うことにした。最初はやや難しそうだったが、すぐに覚えて楽しそうに歌う姿が印象的だった。他教科の学習の中や普段の会話の中で、ちょっとした日本と海外との違いを紹介すると目を丸くして驚いていたり、興味深く質問してきたりと、海外に関しての興味関心は高いと感じる。そして、本校は日本語学級設置校で、地域的に外国籍や外国にルーツがある児童が多い。今年度本学級には帰国子女1名在籍のみだが、学年・学校を見渡すと様々な子ども達が在籍するこの環境は、国際理解教育について理解を深めやすい環境であり、様々な学習を広げられる可能性があると考えている。

多くの児童が大勢の前で話すことにあまり自信がないが、少人数だと話しやすかったり、考えを聞くことを好んでいたりすることから、適切な手立てを設定することで主体的・対話的で深い学びにつなげていきたい。そして、外国語の学習に全員が前向きで、海外に興味がある児童が多いことも、やはり本単元の題材は子ども達の実態にあったものであると考える。一方で身近で耳にするニュースなどから海外に恐怖心があったり、言語の部分で自信がないことで苦手意識を抱いたりしている児童もいることがわかった。そのような児童にとって、外国の良いところを見つけて良い印象を持ったり、更にそこから興味関心を抱いたりできるような学習にしていくことも目標の一つである。

人懐こく思いやりがある子ども達なので、そのまっすぐな気持ちを世界の懸け橋として、パラグアイ、そして世界へとつなげていきたい。

〈指導観〉

① パラグアイの子ども達と友達になることで、世界へ目を向ける。

外国語活動が始まったり音楽会でスペイン語に挑戦したり、そして他教科でSDGsに触れたり、子ども達にとって身近になった外国について、「友達」になるという目的のもと、親しみをもって学習に臨めるような素材の提示や興味を引く導入の工夫をする。

② 自分たちのまち（国）と世界のまち（国）の良さと違いに気づく。

魅力を発信する際の調べ学習で自分たちのまち（国）の魅力に気づき、誇りをもつとともに、パラグアイとの交流により、世界のまち（国）の魅力を知り、互いを尊重し自分たちは同じ地球の仲間だという意識を育む。

③ 相手のことを考えたり思いやったりする中で、国際理解を深めるとともに豊かな心を育む。

ビデオレター作成の際は、相手にとってわかりやすい説明になっているか、足りないところはないかなどを考えて作ったり、一緒に活動する友達と意見を出し合いながらより良いものを協力してつくったりと、

道徳的側面での成長も狙っていきたい。そして何より、外国への前向きな印象や考えをもてることを目指していく。

05 単元計画（全 12 時間）

	小単元名	ねらい・学習活動	評価方法
1	○パラグアイってどんな国？	・写真から見つけたことを共有し、パラグアイの学校の様子を中心に様々な角度からパラグアイの実態を知る。	・発言 ・ワークシート ・感想
	資料・教材など ワークシート		
2	○アミーゴになろう！	・パラグアイの「秘密の友達」のゲームに挑戦し、パラグアイの文化に触れる。 ・「国際友情デー」について考え、日本語学校の子ども達と友達になる方法を考える。 ・自分たちのことを知ってもらうために、行徳小や行徳のまちの魅力、自分たちの日常などを伝える方法を考える。 →様々な方法を考える中で、ビデオレターを作成する準備をする。	・発言
	資料・教材など		
3 ～ 7	○行徳・日本の魅力発信計画（ビデオレター作成）	①学習（教室紹介も含む） ②生活（登下校・業間・給食・掃除・係） ③おみこし集会・行徳のまち紹介 ④日本の文化（衣・食・住・行事など）紹介 ↑クラスごとにテーマに分かれて活動 ・紹介の仕方（劇・紙芝居・ロケなど）や内容・構成などを考える中で、自分たちのまちや国の魅力に気付いたり、伝え方について工夫したりする。	・発言 ・行動
	資料・教材など		
8 ～ 11 本時	○アミーゴのことを知ろう！ステキを見つけよう！	・受け取ったビデオレターでパラグアイの実態を知り、共通点や相違点を見つけたり、新たな疑問をもったりする。 ・知りたい事柄について整理して調べ、わかったことを共有する。（本・インターネット・インタビューなど） ・わかったことをまとめ、アミーゴ（友達）の国のことを理解する中で、世界とのつながりを実感する。	・発言 ・ワークシート ・発表
	資料・教材など ワークシート		
12	○もっともっとパラグアイ！そして世界へ	・パラグアイの課題を知ることで、日本の現状についても考え、世界の实情について興味をもつ。（フォトランゲージ） →4次のテーマ「SDGs」への布石	・発言 ・ワークシート ・感想
	資料・教材など ワークシート		

06 本時の展開（11 時間目）

本時のねらい：パラグアイについて調べたことを整理し、友達と考えを深めあったり、疑問に思ったことを質問したりして、パラグアイの魅力に気付くことができる。 【思考力・判断力・表現力】

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入 (4分)	1、前時までのふりかえり ・パラグアイではお肉をたくさん食べる ・甘いものがたくさんある ・学校が半日しかない ・日本とパラグアイはなかよし ・世界一のスープがある ・どうして雨が降ると学校が休みになるの？ ・どうして日系の人は日本語を話すの？ ・給食はあるの？ など	◎「パラグアイ発見表」に「わかったこと」「疑問」「気になる」の内容確認しながら整理する。 ※前時のワークシートをもとに、本時の見通しをもち、発言しやすくする。 ◎項目別にしながら整理することで、視覚的に理解しやすくする。
展開 (2分)	2、本時のめあてを確認する。 アミーゴのすむパラグアイについて、わかったことをまとめよう。	
20分	3、まだわからない「疑問」や改めて確認したい「気になる」ことについて、予想を立て、グループごとに質問を一つか二つに絞る。 【個人→グループ】 ・なぜ雨だと学校が休みなのか →傘がないから？勉強する量が少ないから？ ・なぜ肉が主食なのか →野菜があまり採れないから？みんな野菜が嫌いだから？ ・スペイン語とグアラニー語2つ勉強するのは大変か。 ・チパ・エンパナーダ・ベジュ・アサードの他によく食べるものは？ ・宿題はあるの？どんなもの？	◎※まずは自己内対話、そして他者との交流と、段階をふむことで、一人一人が考えをもって対話できるようにする。 ※一人では考えつかない事柄について、グループで共有する中で、思考のヒントを得る。
10分	4、オンライン質問コーナーでインタビューする。 日系2世 パラグアイ在住 JICAパラグアイ 福岡 ひとみさん	◎パラグアイ在住の日系人の方にオンラインで直接インタビューすることで、疑問の解決を図る。 ※まずはグループで1つは質問したいことを聞けることとし、なるべく多くの交流がもてるようにする。 ※自分の意見ではなくても、グループの中で出た考えを代わりに発表することも認め、活発な意見交流を促す。

まとめ (6分)	5、全体でまとめ 「疑問」「気になる」→「わかった」へのまとめ	◎インタビューで分かったことをまとめ、「パラグアイ発見表」を完成させる。
3分	6、ふりかえり	◎学習内容をふりかえり、学びを通して考えたことをワークシートに書く。

使用する資料・教材：

- ・ワークシート
- ・大型テレビ装置・パソコン一式・オンライン

07 板書計画

②アミーゴのすむパラグアイについてわかったことをまとめよう			
☆パラグアイ発見表☆※子ども達の調べた内容によって発見表のまとめ方は変える予定です			
衣	食	住	学校
文化	環境	その他	

08 評価規準に基づく本時の評価方法

思考・判断・表現—②：発言、ワークシート、発表

09 学校外との連携（※該当のある場合）

- ・イグアス日本語学校 3学年
- ・JICAパラグアイ 職員 福岡 ひとみさん

10 学びの軌跡（※児童生徒の発言の変化など）

- ・時差や季節が反対なことなどを知って驚く
→オンライン質問コーナーで協力いただいたひとみさんのご厚意の大きさに気づき感謝。
- ・パラグアイに行きたい！直接会いたい！
- ・スペイン語について興味を持つ
- ・自分たちの国について知識を増やすと同時にパラグアイはどのようなのかという思考が広がった。
- ・家族にもパラグアイのことを話すほど楽しく学習に臨み興味を持っていった。
- ・自らパラグアイについて調べ、他教科での学習中や生活の中でもパラグアイの話題を出す。

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

日本とパラグアイの共通点や相違点を見つけながら、それぞれの訪問先での学びをしっかりと吸収し、様々な側面からの授業展開を想定し研修に臨んでいた。中でも「今日の一枚」を担当した日がたまたま「友情の日」で、そのことについて調べたことをきっかけとし、様々な場面で「アミーゴ」について考える機会があったことから、子ども達の実態と繋げ授業を膨らませていった。3年生という発達段階と学習環境から、①他者とのつながりを持つこと②自ら考えること③世界に目を向けること、をゴールに設定していた。本単元の一番の目標である「アミーゴになる」ことで、国という垣根を超えた繋がりを持ち、世界に目を向けることでさまざまな魅力があることを伝えたい。と考えていた。大なり小なり一人一人の胸に種を撒くことを目的としていた。

12 苦労した点

ありません。学年、JICAの皆さんに支えられて取り組みました。

13 改善点

- ・日系の方々についてももう少し学ぶ時間を十分にとるべきだった。
- ・子ども達の強い意欲をもっと生かして様々な学びにつなげるべきだった。
- ・イグアス日本語学校との交流をもっと重ねていきたかった。
- ・準備不足でオンライン配信で少々手間取ってしまった。

14 成果が出た点

(子ども達の変容から)

- ・外国により大きく興味関心をもった
- ・自ら調べたり考えたりする
- ・進んで友達と意見を交流したり協力したりする
- ・比較しながら検討し、最適解を探す など

(教職員・保護者)

- ・研修の内容に興味をもって聞いてくださり、授業の協力をしてくださった。
→「実は興味があって…」「うちでも授業して!」といった声があり、思いのほか多くの先生方が興味を持っていることが分かった。
- ・子ども達が家でも学習したことを話し、保護者も興味を持ったり協力したりしてくれた。
→「パラグアイの勉強が楽しいそうです。」「マテ茶買ってと言われました。」などの声

15 自由記述

最初は授業を単発や自クラスのみでの取り組みで考えていたが、学年の先生方の理解と協力の下、校内授業研究と絡めることで、単元で大きく時間をもらい、学年で取り組むことができた。導入は全クラス私が行い、その後の展開は提案した流れに沿って学年間で情報交換をし、4クラス同時に進めることができた。単元の流れなどを夏休み明けに早々に了承いただいたので、担当した音楽発表会で、「きらきら星」を日本語・英語・スペイン語の3か国語で歌ったり、「小さな世界」では、学年全員で国旗を持ったりする取り組みをするなど、単元に向けた仕掛けを盛り込みながら準備をすることができた。学年の先

生方は、廊下や壁面にパラグアイやSDGsについての掲示物を沢山作って「パラグアイ通り」を作ってください、単元の流れも理解して全面協力で支援して下さった。

今回の学習のテーマである「パラグアイの人とアミーゴになろう」のため、イグアス日本語学校のみなさんには多大なるご協力をいただいた。試験前で忙しい中、目的と意図を理解くださり、素晴らしいビデオレターを送って下さった。子ども達は自分達のビデオレターを作成する際も、日本語学校の友達にわかりやすく伝える方法を工夫したり、想像を膨らませたりしながら生き生きと活動していたが、受け取ったビデオレターを見た時の目の輝きや見終わったあとの感想には思いが溢れていた。将来、この子どもたちがもしかしたらどこかでつながっていくかもしれない。直接でなくても何かしらの形でつながるかもしれない。そう願っている。

また、授業を考える中で、子ども達の今までの学び方として、ゲストティーチャーに協力いただくことが多く、生の声をきくことは学びを深めることにとても効果的だということがわかっていたので、どうかしてその機会をもてないか考えたところ、オンライン質問コーナーを依頼することとなった。日本と季節も時間も真反対、地球の裏側にいるひとみさんには大きなご負担をかけてしまったのにも関わらず、子ども達にわかりやすく、丁寧に回答下さった。授業研講師の先生からは、「ひとみさんの回答によって子ども達はさらに学びを広げられる。」と太鼓判をもらった。バイクで学校に通う子ども達、気温の変化、カラフルなお家、高層ビル…これからも一人一人が興味関心疑問を持ったことを追求していけるよう、モヤモヤワクワクを子ども達と楽しんでいきたい。